

マルチメディア公共情報システムと構築支援ツール

福地陽一* 平野昌彦*
大島 博*
熊谷秀光*

要旨

各種の公的エリアに設置されるシステムにマルチメディア技術が適用されているが、コンテンツの更新が面倒など、種々の問題が明らかになってきた。そのような課題を解決するため、三菱電機では、マルチメディア公共情報端末“TANKT”，マルチメディア公共情報システム構築ツール“AssistantMaker”を開発し、次のような特長のある“対話的な利用者参加型システム”を実現した。

(1) コンテンツの自動蓄積

マルチメディア情報を入力する機能を備えており、利用者は直接端末から情報発信ができる。システム提供者のコンテンツに加え、利用者によるコンテンツ提供という新しい形態を創出し、コンテンツの自動蓄積を可能とする。

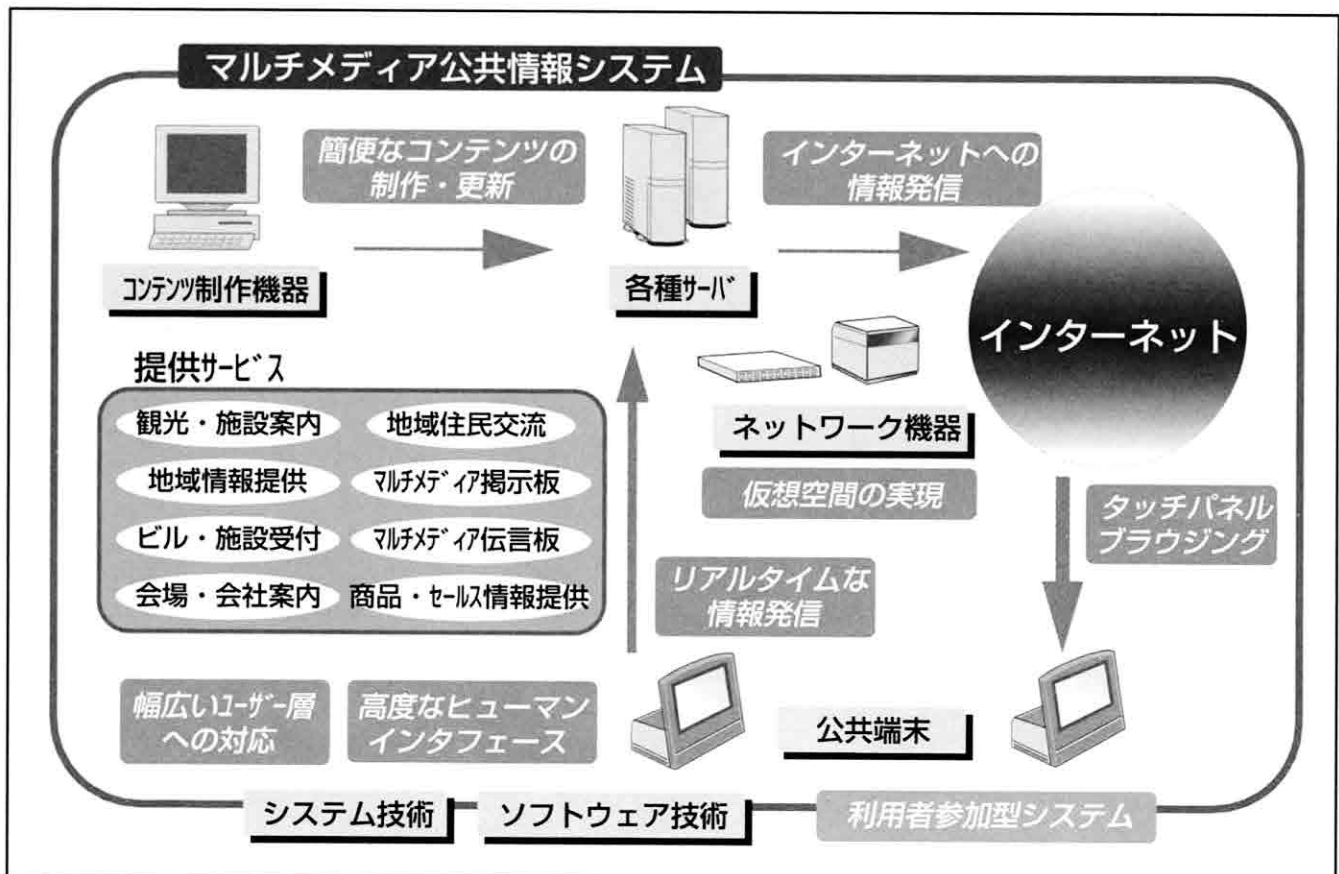
(2) だれでも利用できるヒューマンインタフェース

音声発話による操作とシステム操作をガイドする機能を組み合わせ、インタフェースを擬人化し、幅広い利用者層への対応を可能としている。

(3) 幅広い利用者に対するリアルタイム情報発信

コンテンツ制作という過程を経ずに端末から直接マルチメディア情報を入力することができ、リアルタイムに情報発信が可能である。さらに、インターネット接続機能を使用して、インターネット経由で、より幅広い利用者に対する情報発信を可能としている。

上記システムを利用し、地域住民交流やマルチメディア伝言板など、特長あるサービスを提供することが可能である。



マルチメディア公共情報システムの特長

公共端末上に音声操作機能、及び擬人化したシステム操作ガイドキャラクタを設定し、幅広い利用者層へ対応することができる。また、公共端末から利用者がリアルタイムに情報発信することができ、“対話的な利用者参加型システム”を実現している。さらに、コンテンツの制作・更新を容易に行う制作ツールを提供しており、インターネットへの情報発信やタッチパネルによるホームページ検索も可能にしている。